

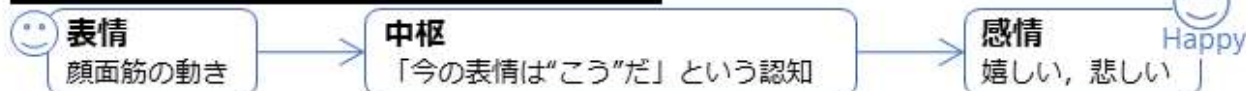
1. 【研究の概要図】

この応募用紙に記載する研究の概要を1頁以内で図式や分かりやすい色を用い、概要図を作成してください。

※様式の変更・追加は不可（以下同様）

研究課題名：観察者自身の表情知覚および行動主体感が感情に及ぼす影響

顔面フィードバック仮説 (Tomkins, 1962)



実験参加者の表情を統制した顔面フィードバック仮説に関する先行研究での実験方法

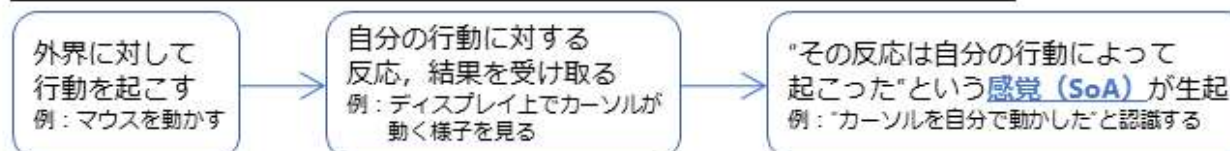
- 他者の表情表出写真を見せて模倣させる (e.g., Kleinknecht, Peterson, & Rutledge, 1998)
- 情動喚起映像を見たときに表出される表情を誇張、抑制させる (e.g., 野口・吉川, 2009)

こうした表情の模倣、誇張、抑制といった実験手法を用いた場合

“自分で表情を変化させている”という主観的体験が感情に影響を与えている可能性がある

この主観的体験は、**Sense of Agency**と関わりがあるのではないかと

Sense of Agency (SoA) の定義 (Haggard & Chambon, 2012)



表情とSoAの関係を詳しく検討するために、 表情変化から顔面筋の動きを取り除きたいと考えた

吉田他 (2015)：表情変形システムを構築 (図1)

参加者がマウスを動かすことで、提示された映像内の参加者の鏡像上の表情が変化する

参加者の正面に鏡像を提示



顔面フィードバック効果を強くするためには、 表情変化の認知が重要なのではないかと

図1 研究に使用する実験装置

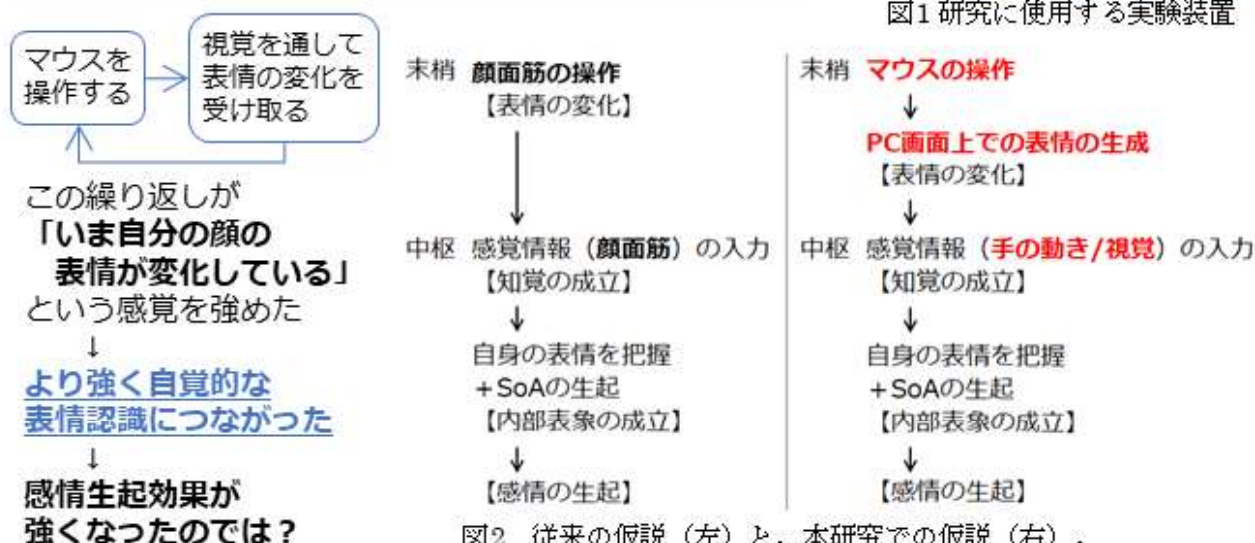


図2 従来の仮説 (左) と、本研究での仮説 (右)。

SoAは顔面フィードバック効果を強める可能性がある
本研究ではこの可能性について、実験心理学的に検討する